

一歩一歩を 距離にする努力

一般質問報告

「ひとつのことを1000%改善することよりも、1000のことを1%ずつ改善することを望む」経営危機の企業を救った社長が、立て直しの際に、従業員に語りかけた言葉です。

県政にかかわって7年半、行政も同じように、同時に発生しているさまざまな課題を、少しずつ前に進めていくことが求められる組織であり、粘り強くその1%の進捗を確認することが重要だと考えてきました。

2期目の締めくくりとなる今回の一般質問は、その小さな一歩の積み重ねを距離として見返すことができるものとなりました。以下抜粋でご報告します。



◆京葉線・りんかい線相互乗り入れ
実現に向け強い
リーダーシップを

約8年前私が初出馬した当時は、主要施策のひとつであるこの「京葉線・りんかい線相互乗り入れ」の話をするに、「そんなことができるのか」と半信半疑に受け止められる方が多かったように思います。今では、「いつごろ実現になりますか?」「どこまで直通でいきますか?」という反応。この大きな施策が歩んだ距離を物語っています。今回の一般質問でも、再度、森田知事に県の認識と取り組みを確認。

「相互直通運転の実現は、東京湾岸地域の一体的な発展にとって重要と認識している。関東知事会議や9都庁市首脳会議で、実現に向けた国への要望を提案し採択されている。引き続き国に要望するとともに、鉄道事業者の理解を得られるよう、広域的な連携を検討していきたい」(森田知事)との答弁でした。

行政という組織の歩幅は小さくても、知事は、アクアラインのETC料金800円を実現した時のように、時に大胆な一歩を踏み出すことが可能なのです。この件についても、リーダーシップを発揮し、実現を目指すよう強く要望しました。

◆孤独死対策について

危機感を持った
対策推進が必須

2010年に松戸市の常盤平団地を視察して以来の私のテーマです。団地は、一斉人居の後、居住者が

県議会報告



2014
Vol.27

【Profile】町立見明川小、市立見明川中出身、県立市川東高校、駒沢大学を卒業後、富士(現みずほ)銀行に入社(16年勤務)。2007年4月千葉県議会に出馬し初当選。2011年5月再選(現在2期目)。文教常任委員会。民主党千葉県議会議員会総務副会長。民主党千葉県連組織委員長。
<http://www.yazaki-kentaro.jp>

同時に歳を重ね高齢化していきます。常盤平団地も、住民の3分の一以上が高齢者となり、誰にも看取られず亡くなる方が相次いだことを契機に、孤独死を防ぐ、さまざまな活動を展開してきました。

千葉県の現在の高齢化率は23.8%、6年後の2020年には27.4%、2030年には31.9%に達すると予測されています。常盤平団地の状況は、いまや全県の問題。コミュニティ形成を柱とした孤独死防止策が必要です。現在の取り組みとして『しない・させない・孤立化!』を合言葉に、県は高齢者孤立化防止活動『ちばSSKプロジェクト』を展開している。今後もこの活動を広げていきたいとの胸を張る知事。しかし、県政の世論調査結果によると、「SSK」の認知度はわずか1割程度という状況です。

実は、孤独死の定義ができていないため、実態の把握が難しいという現実があります。何をもち「孤独死」とするのかを定めない限り、原因解明も防止策も、また、数値目標や行動計画も明確さを欠くことになるでしょう。定義づけを行い、実効力のある対策を取っていくよう引き続き働きかけてまいります。

◆ニューフィルハーモニー
オーケストラ千葉について
経営改善で
楽団の魅力発信

2008年、はじめて団員の方から相談を受けたときは、予算を削減され、存続の危機に陥っていたニューフィル千葉。再構築計画に沿って再生を進め、累積赤字を解消するまでに再生してきました。その計画も昨年度で終了。千葉県民が誇るオーケストラとなるための次のアクションがはじまっています。

「今年度から3年間の中期経営計画として『ステップアッププラン2014』を策定。38人のオーケストラ体制の早期確立や演奏拠点の整備、新規演奏会の獲得を図っていく(環境生活部長)という説明を受けました。

「文化は社会的インフラ」です。予算削減を旗印に、この県民の楽団を解散に追い込むようなことがないよう、ポリシーを持って、再生→活性化→自立化への道を支援すべきと活動してきました。再生の道を、県民、スポンサー、ファン、団員、行政が、共に歩んできた結果が、今のニューフィル千葉の姿なのです。

(裏面につづく)

一般質問報告 (表面のしき)



◆◆観光施策について

観光に有効な

海上交通網の整備

2期にわたり、千葉真議の有志が超党派で組織する「観光立県推進議員連盟」に所属してきました。

さまざまな千葉の観光地に足を運びましたが、東京に隣接する浦安から東京湾の出入口館山までの、水辺の観光資源は、非常に魅力的であり、また発展の余地があります。

この水辺をつなぐ、海上交通網は過去に何度も検討されては消えています。整備の方法によっては、そのインフラそのものが、観光の目玉になる可能性もあります。交通網も含め水辺の観光資産価値向上を検討していくべきと提言しました。

◆◆人権施策について

時代に即した改定と
理念の実行を提言

県は「千葉県人権施策基本指針」を改定しています。

現在の指針は、10年前に堂本県政下で策定されたもの。その後制定された「いじめ防止対策推進法」や新たに浮上してきた、ネット上の人権侵害、高齢者や障がい者など弱者への虐待、職場でのパワーハラスメン

トなど、今の時代の人権問題に適合した内容となるよう見直しを行い、今年度中に策定される見通しです。すべての人の人権が尊重される社会の実現は、県が果たすべき責任。この指針をもとに、千葉の人権施策を推進するのはもちろんのこと、県が行うすべての事業・サービスに、その理念をいきわたらせるよう、働きかけてまいります。

◆◆日の出護岸について

市民が安心できる
護岸整備を

護岸整備を

震災から3年。浦安市内の護岸復旧は終了したものの、一部の護岸の復旧状況に対し、市民の不安が寄せられています。日の出地区の東側一帯は、護岸の修復は完了しています。液状化対策はされておらず、周辺の被害状況から考えて、次の震災時には、崩落などの大きな被害が発生するのではないかと懸念されています。県の主張は、「東側の護岸の破損は、地震の揺れによるものであり、液状化被害は認められないため原形復旧した(県土整備部長、更に、現在の強度基準を満たしているとのこと)。「想定外」の被害をもたらした東日本大震災は、全ての安全基準の信頼をも崩壊させてしまいました。今後再整備を検討する中で、強度強化について検討するよう要望しました。

この他に液状化対策について、県の調査内容と結果の活用方法を確認。また、北菜ダイエーの土壌から六価クロムが検出された問題の県の対応を問いました。
2期目を締めくくる一般質問を終え、継続して取り組むもの、新たに追加するものなど、県政課題を整理し、次の主要政策を組みなおしてまいります。

文教常任委員会
質疑内容抜粋

所属委員会は、1年ごとの改選となり、9月議会から、他の委員会へ異動するため、今回が最後の文教常任委員会となりました。

教育や学校にかかわるこの委員会です。少子高齢化の社会で子どもをいかに守り育てるか、県の重大な課題です。しかし、その課題を解決する策は必ずあるはず。県の教育施策全体への提言にまとめたいと思います。以下、委員会の質疑報告です。



◆◆県立特別支援学校整備計画

計画に沿った
対応を要望

支援が必要な生徒たちが通う、県立特別支援学校では、児童生徒数の増加が著しく、教室不足や施設の狭隘化の解消が課題となっています。そこで県は、「●平成22年度時点での県立特別支援学校の過密分1400人のうち700人程度の過密分の解消を図ること ●平成23年度から平成27年度までの1012人の増加分にも対応すること ●スクールバスの待機者の解消や長時間乗車の短縮を図ること」を当面5

年間の対応とした「県立特別支援学校整備計画」を策定し、課題解消に取り組んでいます。しかし、スクールバスは、いまだ待機が多く、乗れたとしても障がいのある児童・生徒たちが、長時間の通学を余儀なくされています。浦安市内に特別支援学校を作ることも協議されていますが、進捗が見えてこない状況です。計画に沿って改善を図るとともに、協議を継続するよう指摘しました。

◆◆アクティブスクールについて

設置拡大で
学び直しの機会を

学び直しの機会を

地域連携アクティブスクールは、高校から頭張りたいたと、意欲をもった生徒に対し、地域の力を活用し、学びなおしと実践的なキャリア教育を行う、自立した社会人を育成する学校です。一昨年、泉高校、天羽高校の2校に設置され、学力向上や、あいさつなどマナー向上につながったと報告されています。

「県立学校改革推進プラン」では、このアクティブスクールを全部で4校程度設置することになっていますが、あまりに少ないと考えています。良い事例を早急に仕組み化し、できることから取り入れて行くことも不可能ではないはず。拡大を検討するよう要望しました。

◆◆子どもと親のサポートセンター

意義の共有を

不登校に悩む子どもと親に、同じ悩みを解決してきた経験者たちが寄り添い、サポートするこの事業、事業継続を求める請願を担当しましたので、継続して見守っていききたいと考えています。

文教常任委員会の締め括りでもありましたので、再度、事業の継続と事業の意義の共有を要望しました。



県政に
あなたの声を
県政相談受付

Web <http://yazaki-kentaro.jp>
Mail info@yazaki-kentaro.jp
Tel 047-720-0929
Fax 047-720-0939



▲アドレスや電話番号を
読み込みます。

矢崎けんたろう事務所 〒279-0022 浦安市今川 4-2-2-1